

近現代史の基礎文献『矢部貞治日記』を、未公刊部分含め完全収録。
戦時下の極秘史料も搭載した第一級の資料集

オンライン版

矢部貞治関係文書 補遺

原本：矢部家所蔵・衆議院憲政記念館寄託



読売新聞社提供

昭和初期を代表する政治学者 矢部貞治（1902-1967）の旧蔵資料。大正 10 年～昭和 42 年までの『矢部貞治日記』原本やノート等の自筆資料のほか、矢部の手元に残された戦前・戦中の原史料群も収録。戦前から戦後にかけて現実政治を生きた知識人の軌跡をたどる第一級の史料群。

出版・発売元：丸善雄松堂株式会社

政治学者・矢部貞治、その人生と時代を知る意味

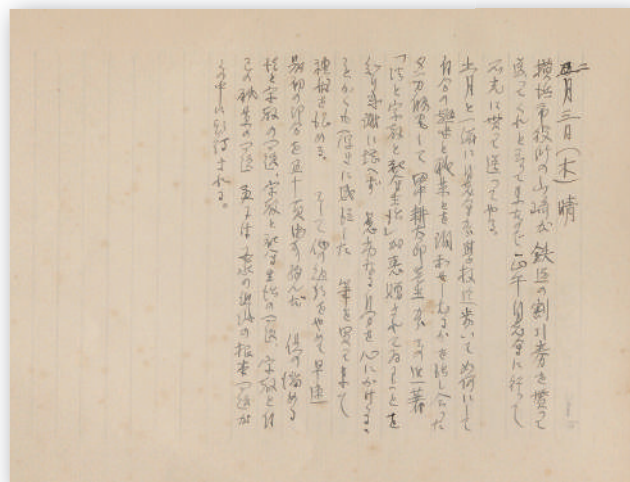
東京大学教授 荻部直

『矢部貞治日記』をひそかに座右の書としている日本近代史研究者は、実は少なくないのではないか。「ひそかに」と書いたことにはわけがある。矢部貞治は、一九三〇年代、リベラル・デモクラシーの危機が叫ばれる時代に、当時の最新の政治理論の研究に努めた政治学者である。東京帝国大学法学部教授を務めながら、昭和研究会と新体制運動、さらに戦時下では海軍省調査課の政治懇談会などに参加し、現実政治との関わりを続けてきた。

しかし戦後には時代の転換とともに、ジャーナリストティックな意味での知識人の世界の主流からははずれてしまう。「戦後民主主義」やマルクス主義の影響力が強いなかで、憲法調査会や中央教育審議会で活躍した矢部は、体制派、もっと言えば戦後思想に対するアンチの存在のように位置づけられたと思われる。著書は版を重ねていたが、学問の最先端の現場からは離れた存在となっていた。

だが、かつて読売新聞社から刊行されたその日記は、きわめておもしろい。このたび、刊本では削除された部分も含め、憲法記念館に寄託された日記の原本が、このデータベースには収録されている。時期は一九二一年の旧制高校入学時から始まり、一九六七年、逝去の三日前にまでわたる。その間、戦前・戦中・戦後と変転する時代のなかで、

この政治学者が何を考えていたか。同僚であった田中耕太郎・南原繁・丸山眞男との関係はどうだったのか。政治家や官僚・軍人といかに交流していたのか。同時に収録される、昭和研究会や海軍省調査課の関連文書とともに、歴史のなかに生きた個人の軌跡を、当人の直筆によってリアルに知ることのできる、一級史料である。



昭和2年2月3日条 [田中耕太郎『法と宗教と社会生活』について]

新しい昭和史解明のための新史料群

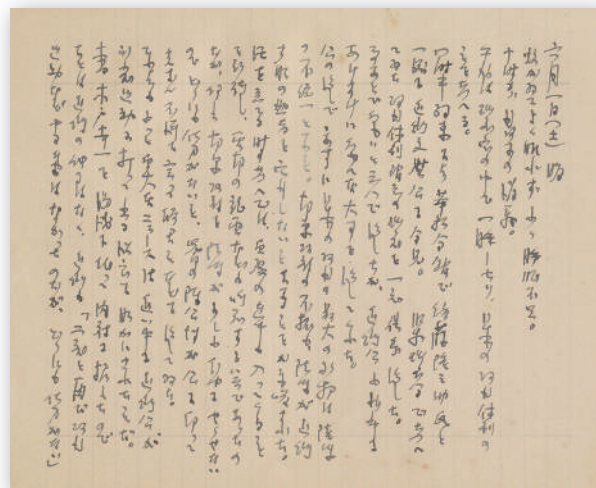
帝京大学教授 筒井清忠

矢部貞治の意義を改めて認識したのは、『近衛文麿』（岩波現代文庫）を書いた時であった。近衛文麿の評伝としてはすでに優れた岡義武先生の『近衛文麿』（岩波新書）があり、伊藤隆先生の『近衛新体制』（中公新書、講談社学術文庫）をはじめとする一連の研究もあったので、そうした中に私自身の評伝を加えるのは僭越であることは承知していたが、一方で昭和史、他方で教養主義の研究をしてきた私はその二つを架設する代表的象徴としての近衛の伝記を書かねばならなかった。

その時に圧倒的な存在として浮かび上がってきたのが近衛文麿の新体制に最も深くコミットしたイデオログ矢部貞治の手になる『近衛文麿』伝であった。これを重要な武器にしてとくに新体制期などを何とか執筆していったが、その途中で矢部が執筆に際して元にした膨大な資料の存在が浮かび上がってきた。しかし、残念ながら当時それは容易に見うるものではなかった。それが今回ついにその全部が見られうることになったのである。研究を志す者としてこれほどうれしいことはない。

近衛は思想的矛盾を抱えた存在であったから色々なことが言われたが（全部のレッテルを継ぎはぎすると実にちぐはぐな存在となる）、矛盾して見える中からその人物の核心に当たるものを取り出し統一したイメージで捉えることが

伝記研究者の仕事である。しかしこの仕事をやり抜くためにはその思想を支えた存在の詳細な検討は欠かせない。断片的史料の中にこそその人の核心が秘められていることが多いからだ。近衛に最も近く、とくに新体制の思想的バックボーンだった矢部のいわば断片的文書まで含めた本文書の出版によりまた新たな『近衛文麿』伝が書かれうるものと思われる。出版を待つこと切なるものがある。

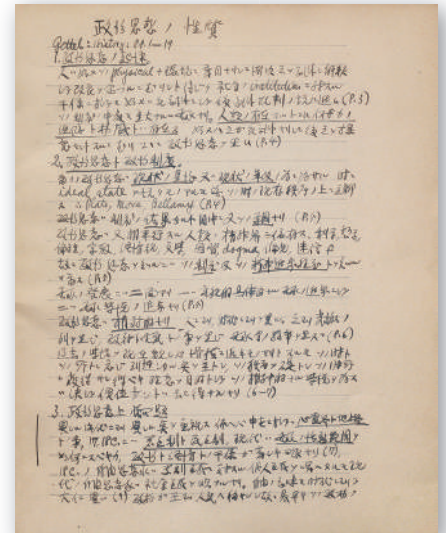
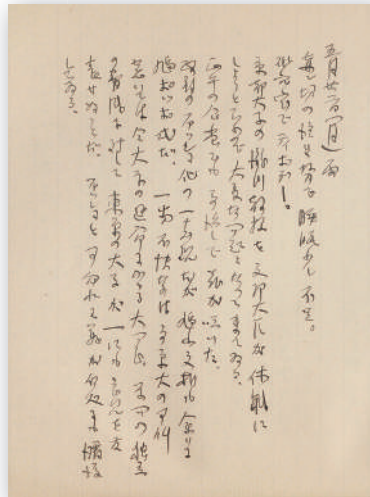
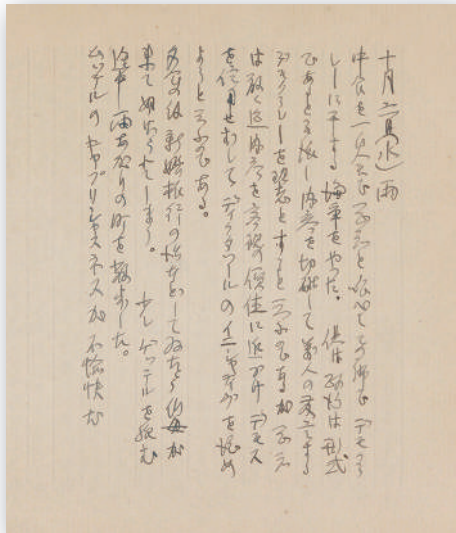


昭和15年6月1日条 [近衛文麿との初めての会見]

戦前から戦後の政治状況を映し出す膨大な日記と原史料群

矢部貞治日記

矢部自筆ノート



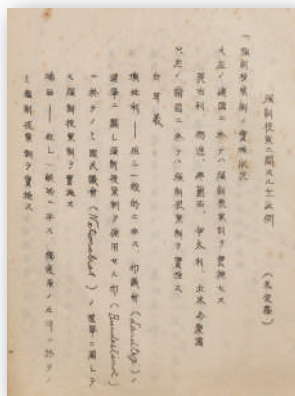
昭和8年5月22日条 [京大滝川事件]

大正15年10月6日条 [岡義武との議論]

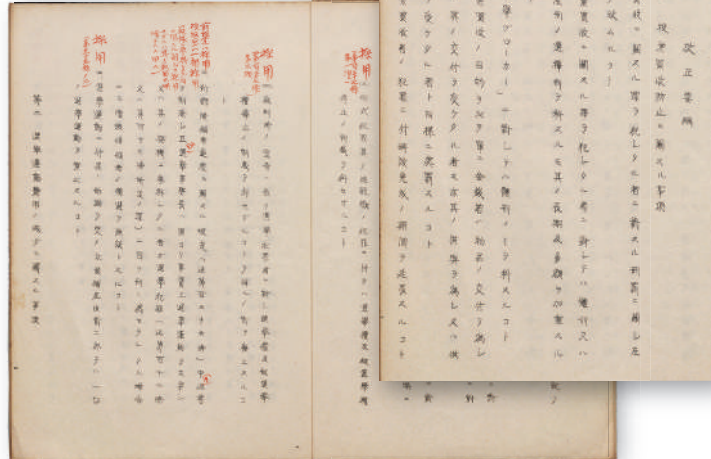
「矢部貞治ノート」

衆議院議員選挙法改正関係

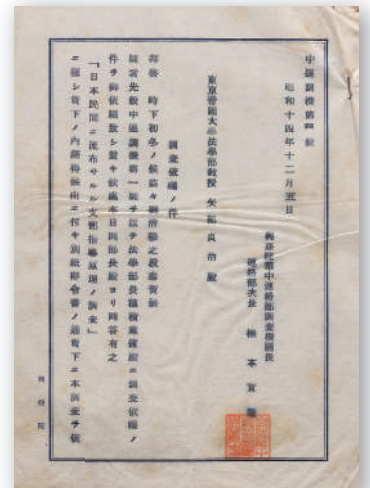
興亜院



「強制投票二関スル立法例
(未定稿)」

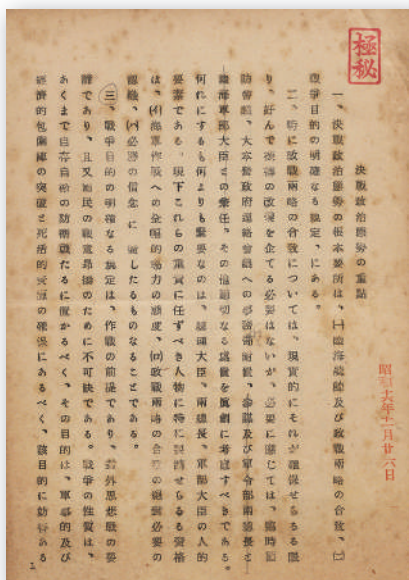


「衆議院議員選挙法改正要綱」(法制審議会 昭和7年11月21日)

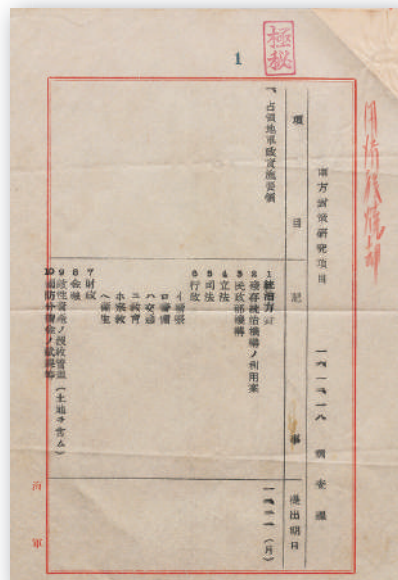


「調査依囑ノ件」
(興亜院華中連絡部 昭和14年12月5日)

海軍省



「極秘 決戦政治態勢の重点」
(昭和16年11月26日)



「極秘 (焼却指示付) 南方対策研究項目」
(海軍省調査課 昭和16年12月18日)

オンライン版

矢部貞治関係文書 補遺

矢部の日記、ノートなどの自筆資料に加え、矢部の手元に残された戦前・戦中の原史料群で構成。長期かつ膨大な『矢部貞治日記』の原本は未公開部分も含め完全収録。昭和6年の衆議院議員選挙法改正関係資料や、戦時下の海軍省、大東亜省、昭和研究会等、矢部の関わった諸団体の内部資料もあわせて搭載する。

既刊の「オンライン版 矢部貞治関係文書」を補完する内容であり、双方をあわせて導入することで戦前から戦後にかけて現実政治を生きた矢部の旧蔵資料を横断的に利用することが可能になる。

「近現代政治外交史データベース」の他のコンテンツとの横断検索も可能。

オンライン版 矢部貞治関係文書 補遺

原本：矢部家所蔵・衆議院憲政記念館寄託

価格 ￥270,000 (税別)

プラットフォーム：J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズ センター
完全買切型（ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です）
<1ヶ月の無料トライアル受付中、お申し込みは kenkyushien@maruzen.co.jp まで>

収 録 内 容

矢部自筆資料

日記（大正10年3月21日～昭和42年5月4日）
手帳・ノート

戦前・戦中資料

海軍省

決戦体制下の諸方策文書
東亜省設置関係資料
海軍省調査部研究資料

海軍大学校

兵理研究関係資料

外務省

大東亜省

興亜院

昭和研究会

大政翼賛会

国策研究会

衆議院議員選挙法改正関係資料

好評発売中

近現代政治外交史データベースは横断検索が可能です

オンライン版 矢部貞治関係文書

原本：政策研究大学院大学図書館所蔵

監修：伊藤 隆 東京大学名誉教授・政策研究大学院大学名誉教授

価格 ￥400,000 (税別)

政策研究大学院大学図書館所蔵の矢部貞治旧蔵資料を収録。矢部の自筆資料や書簡のほか、戦前から戦後にかけて関わった諸団体—昭和研究会、海軍省・海軍大学校、憲法調査会、行政審議会、公安審査委員会、選挙制度審議会、明治百年記念準備委員会などの内部資料で構成。1920年代から1960年代後半までをカバーしており、激動の昭和史に迫る第一級の史料群。

オンライン版 楠田實資料（佐藤栄作官邸文書）

編集：和田 純 神田外語大学教授 全2部 価格 ￥800,000 (税別)

戦後最長の佐藤栄作政権（在任期間：1964～1972）を支えた首席秘書官楠田實（1924～2003）が残した、未公開官邸資料。外交から内政まで第一級の極秘資料で構成される事実上の「佐藤栄作文書」。
四千点を超える一大コレクションであり、今後戦後史を語るうえで不可欠な基本史料である。

オンライン版 大平正芳関係文書

編集：小池 聖一 広島大学教授、福永 文夫 獨協大学教授 価格 ￥400,000 (税別)

第68・69代内閣総理大臣をつとめた大平正芳（1910～1980）が残した膨大な文書群。大平正芳自筆の日記・手帳から、書簡、外務省や通産省などの官庁資料、国会答弁・演説用の原稿資料、選挙関係資料、さらには大平の回想録執筆にあたって行われた政財官の重要人物へのインタビュー記録など、膨大かつ多様な原史料を収録。